

事務事業評価シート(平成21年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
事務事業名		こども未来 課	越川昌信	高見隆一
子ども議会開催事業		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
		新規	年度	年度
		<input type="radio"/> 継続	<input type="radio"/> H20以前	<input type="radio"/> 未定
事務事業の体系				
計画掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう	
	個別計画	(基本計画)		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
		<input type="radio"/> ソフト事業	施設の維持管理	
		<input type="radio"/> 義務的的事业	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		<input type="radio"/> 建設・整備事業	計画などの策定	
子ども議員・質問の集約、各課へ依頼、回答の調整等		補助金の支給	有 <input type="radio"/> 無	
		委託	全部委託	一部委託
		<input type="radio"/> 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
児童生徒	児童生徒	行政事務事業の内容を理解してもらい、町への期待や日頃行政に対して感じている疑問や課題などを提案してもらう。そして、子どもの目線から見た町づくり行政のあり方を考える機会とする。

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>		会計名	一般	会計
細目名	教育指導費	細目名		
予算コード	款 10 項 1 目 3 大 11	予算コード	款 項 目 大 事業	予算コード

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	20年度決算	21年度実績(見込)	22年度計画	備考(全体事業費など)
総コスト		千円	453	558	846	
コストの内訳	直接事業費		3	3	3	
	所属内間接費					
	人件費	450	555	843		
投入人員	正職員	人/年	0.06	0.06	0.10	
	嘱託員					
財源内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		453	558	843	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段(事務事業整理シートより)	活動指標(手段の数値化)	単位	20年度実績	21年度見込	22年度目標
1	子ども議員・質問の集約	子ども議員の選出、質問の取りまとめ、答弁依頼、こども議会の開催	議員選出	人	18	18	18
2	各課へ依頼、回答の調整		納得できる答弁	%	100	100	100
3							
4							
5							

(ソフト事業) (B面)

事務事業名 [子ども議会開催事業]

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [子ども議会開催事業]			備考 (成果指標の考え方・計算方法)
成果指標(意図の数値化)	単位	20年度実績	21年度実績(見込)	22年度目標	
議員数	人	18	18	18	
各議員への納得できる答弁	%	100	100	100	

7 事務事業の事後評価 <Check>		(ソフト事業)				担当の把握している課題		
チェック項目		該当項目に「○」						
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	高い	高くない	○	把握なし	今後同じ形で毎年継続していくのは難しい。	
		緊急性は	高い	高くない	○	把握なし		
	利用者・対象者数は	○	増加	減少		横ばい		
	他市町と比較して対象者に見直しの余地は	○	ない	ある		把握なし		
町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○	ない	ある		把握なし		
	国や県の事業(サービス)との重複は	○	ない	ある		把握なし		
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○	ない	ある		児童生徒にとっては有意義であると考えられる。	
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	○	ない	ある			
	他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○	ない	ある		把握なし		
	連携の可能性	他課で類似の事業は	○	ない	ある			あるが困難
他の事業と統合できる可能性は		○	ない	ある		あるが困難		
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○	ない	ある			
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○	ない	ある			
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	○	ない	ある			
		受益者負担を見直す余地は	○	ない	ある			
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで	○	ある	ない		施設の改善要求に対して回答が困難である。	
		前年より成果が上がって		いる	いない	○		横ばい
	持続の可能性	継続することによる効果は	○	高い	高くない			測定困難
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○	いる	いない			測定困難
市場化の可能性	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	○	委託化は不可能	
	市場化テストの導入について検討する余地がある				市場化テストの導入を検討する余地はない			
改善の可能性		1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある		
		3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要		

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 子ども議会開催事業

職場からの意見(担当者)										
(課題の解決についての提案など) ・今年度で4回開催となり、過去の子ども議会の質問と重複し始めている。 ・施設改善等の要求が多くなり、各課とも回答に苦勞している。										
担当課長評価										
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 議会の果たす役割や機能の理解を深める機会として実施している本事業も、その準備と内容の負担と効果を考えた場合、運営の方法・実施内容を見直す時期に来ている。										
所管評価	1. 重点的に継続	2. 現状のまま継続	3. 内容を見直しながら継続	○	4. 縮小を検討					
	5. 統合・連携を検討	6. 休止・廃止を検討	7. 終了・完了	内部評価		3				
教育長評価										
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 現状のまま継続していく。										
事業評価	1. 重点的に継続	2. 現状のまま継続	3. 内容を見直しながら継続				4. 縮小を検討			
	5. 統合・連携を検討	○	6. 休止・廃止を検討	7. 終了・完了						
評価委員コメント										
開催方法について検討してみてもどうか。たとえば、隔年開催や3年に1回開催など。										